

第 6 回東京都アルコール健康障害対策推進委員会における各委員の主な意見

東京都アルコール健康障害対策推進計画の改定について

- 生活習慣病のリスクの高める飲酒を行う原因を分析し、女性に必要な対策を検討すべきではないか。
- 女性と関連する事業（母子保健等）において、ターゲティングして普及啓発を行う必要があるのではないかと。また、あわせて情報収集を行っていくこともできるのではないかと。
- 飲酒と運動・入浴・自殺・精神疾患等との関係も記載してあるとよいのではないかと。
- SBI RTSについて、具体的な取組（医療の充実等）でも記載した方がよいのではないかと。
- 母子保健の中で、飲酒に関する普及啓発がされているが、市町村事業などを活用し、町会やPTAなど様々な場面で普及啓発ができるとよいのではないかと。
- 対策上、節酒・断酒のいずれをとっているのかが見えにくい。裾野の方には、一般医療機関が節酒で対応し、対応が困難となった場合、専門医療機関で対応していくという流れになるのではないかと。
- 酒造メーカーは、甘いお酒を売ったり、テレビコマーシャルでも女性をターゲットにしているのは明らかであり、社会的な問題だと考える。